

整理番号	28-15	事務事業名	路面凍結防止対策事業		作成部署	建設部土木事務所	電話	内線760
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	齊藤順二	課長職名	高橋孝一	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	H4	根拠法令等	(参考)北海道脱スパイクタイヤ推進条例					
〃終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	冬タイヤのスタッドレス化に伴い、冬期間の走行車両の安全確保(交通事故未然防止)、交通渋滞の緩和(つるつる路面解消、坂道の発進、停止等)のため、急勾配路線に対して路面凍結防止施設の整備を行う。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	高い都市機能を持ち、活力にあふれるまち	(第5章)
	節	道路と交通	(第3節)
	施策	冬期間交通の確保	(第5施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	急勾配路線を走行する車両	
	意図(何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	走行車両の安全確保(交通事故未然防止)と交通渋滞の緩和	
手段(ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(補助金等の場合は団体等の活動内容)	16年度まで	平成12年度~大曲団地2号線ロードヒーティング A=361.6㎡ 平成13年度~大曲団地2号線ロードヒーティング A=194.2㎡ 平成14年度~大曲団地2号線ロードヒーティング A=384.0㎡ 平成14年度~路面凍結防止剤自動散布装置設置 3基(広葉通線外2路線) 平成15年度~路面凍結防止剤自動散布装置設置 3基(大曲通線外1路線)
		17年度	ロードヒーティング等の整備は効果的ではあるが、管理コストが高むことから、より安価で効果的な工法の検討を進める。

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金	8,000			
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	1,540			
合計		9,540	0	0	0
人件費(概算)	人数(年間)	0.12			
	1人当り年間平均人件費	9,235			
	= x	1,108	0	0	0
総事業費 +		10,648	0	0	0

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指標	指標(算式)	指標値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標(事務事業の活動量や実績)	ロードヒーティング設置箇所数	0	0	0	0
	ロードヒーティング整備延長	0	0	0	0
	自動散布装置設置数	3基	0	0	0
成果指標(目的の達成度を測るものさし)	路面对策実施累計箇所数	15	15	15	15
	整備率(%) (H12まで整備済み7箇所)	68.2%	68.2%	68.2%	68.2%
	(整備累計箇所数÷要整備箇所数22箇所)				
効率指標(主要活動単位当たりコスト)	1箇所当り整備コスト				
	(総事業費÷整備箇所数)	3,549千円/箇所			

整理番号 28-15

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	夏場と同様の路面状況を保持できるロードヒーティングは、路面凍結防止効果は大であるが、維持管理コストが莫大にかかることから、札幌市は、平成14年度よりロードヒーティングを一部廃止して塩化カルシウム散布強化へと変更し、コスト縮減を行ってきている。
---------------------------------	---

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	冬期間における走行車両の安全確保の課題であり、市が行う事業である。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	冬期間交通の安全対策であり、目的は妥当である。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。他の手段や委託化などの可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	現在、本市の路面凍結防止対策は、ロードヒーティング(電気)、凍結防止剤(液状)自動供給装置、凍結防止剤自動散布装置などの工法で実施している。	より安価で効果的な工法の検討を進める。
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない	受益者負担の余地はない。	

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	冬期間交通における危険防止や事故抑制の役割を果たしており、成果は上がっている。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	路面状況に応じた施設の稼働を調節しながら、路面凍結防止対策を行っている。	路面状況に応じた施設の稼働調整やより安価で効果的な工法の確立によって、コスト削減を図る。

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法等を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	路面凍結防止対策事業は、平成4年度から実施してきており、平成16年度現在の整備率は約68%となっている。ロードヒーティングは、安全対策上は効果的な工法である一方、莫大なランニングコスト(電気料)が大きな負担となってきている。今後は、より安価で効果的な工法の検討を進め、検討結果が出るまで施設整備は一時休止する。また、未整備箇所については、当面、路面凍結防止剤散布の強化などにより対応していくこととする。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	ロードヒーティングのランニングコストを考えると、施設整備の休止は止むを得ない。1次評価にあるように、当面、路面凍結防止剤散布で対応していくとともに、より安価で効果的な工法などについても調査検討していく。